

長畝ふるさと通信



【2021年9月号】

■ 積算温度が・・・

コシヒカリの刈取が遅れています。例年であれば9月末には全体の75%程度は稲刈りが終わっているのですが、今年はまだ半分まで終わっていません。原因は積算温度です。稲刈りを始める目安はモチロン、モミの黄化具合を見て判断するのですが、コシヒカリの場合は5割程度の出穂した後から毎日の平均気温の数字を積み上げて「1000度」が刈取時期と言われています。ところが今年は8月末の長雨と日照不足から気温が上がらず、積算温度が1000度に到達したのは平年よりも約一週間も後でした。しかも今年は空梅雨で草丈が伸びすぎてしまい、雨の影響もあって早くから稲が倒伏しておりコンバインでの刈取作業が難航しています。気になるお米の品質ですが、若干粒が細く、規格外のお米が多かったものの、食味値については例年通りの数値を出して



いますのでご安心ください。お米屋さんからコロナの影響でコメの過剰在庫から新米がなかなか売れない状況にあると聞きました。「安ければ古米でもいいよ」とは悲しい現実ですが、「新米はやっぱり美味しいね」が勝つような世の中に戻ってほしいものです。

- ぬかるんでコンバインが入れない田んぼは人海戦術の手刈り作業です。コンバインなら1時間で終えるのに、20人で1日近くかかってしまいました。疲労困憊です。



■ 稲刈りから出荷まで



組合には5条刈りのコンバインが4台あり、1日に3～5haの稲刈りをこなします。刈り取ったモミはダンプでライスセンターへ搬入され、粗選機で稲わらや草や土などを振るい落とし、計量器でモミの重量を量り、乾燥機で水分15%以下にまで乾燥します。

翌朝、乾燥が仕上がったモミはうす摺機でモミ殻を外し玄米にして、1.85ミリ規格以下のものは振るい落としくず米になります。玄米は色彩選別機で着色粒や未熟粒や異物などを取り除き、玄米袋に詰めてJAに出荷し、穀物検査を受けます。トキ米は「1等米」しか認証されないので調整作業には最大限の注意を払っています。



<乾燥機1台に8トンのモミが入ります>



<2台のうす摺機と色彩選別機は毎日フル稼働>

■ これからどうしたらいい？

令和3年産米の新潟県の米概算金(全農がJAから買い上げるコメの価格)は右の通りです。新潟県に限らず全国的に前年から2~3割下げとなっています。コメ百姓の悲鳴が聞こえてきます。このまま低価格が定着したら明るい将来の展望など全く見通すことができません。驚くことにJAはこれだけ生産者への買い上げ価格を下げてもコメ販売手数料は前年同様に(コシヒカリで 1俵 2,840 円もかかる)頂ののです。

国のコロナ対策と同じく「お金が必要ななら低金利で融資させていただきませ」的な対応に、「ホントに農家組合員に寄り添った組合ですか」とお尋ねしたい！(ここでわめき散らしても仕方ないですが…ゴメンナサイ)

■ なぜ？

なぜ、これほどまでコメ相場が低迷したのでしょうか。「人口減少」「日本人の食生活の変化～コメ離れ」「コロナによる外食産業の低迷からの過剰在庫」など様々な要因があげられますが、そも



そも国がコメ政策を大きく転換したからではないでしょうか。一方で食糧の安定供給を謳いながら、もう一方で生産調整をコメ集荷業者に丸投げし、弱肉強食の市場原理に任せてしまった。農家の見方であるはずのJAも潰しにかけ、政府に楯突くこともできない弱～い組織に変えてしまった。「集まって大きな力に」のローガンが弱々しく見えます。

秋の収穫も最盛期を迎え、コンバインは朝から晩までフル稼働し、ライスセンターも連日夜遅くまで作業しています。いつもなら収穫の喜びで辛い中にも「楽しさ」もあるのですが、さすがに今年は気分が晴れません。

秋晴れの空はまた来ますか？

■ 新米は10月15日頃発送いたします。

概算金ショックから未だ立ち直れず、愚痴ばかりこぼしてしまい申し訳ありません。「新米ってやっぱり美味しいね」と言ってもらえたらうれしいです。

新潟県の2021年産米概算金		
銘柄	概算金(円)	前年比
一般コシヒカリ	12,200	▲1800
岩船コシヒカリ	12,600	▲1800
佐渡コシヒカリ	12,600	▲1700
こしいぶき	9,800	▲1900
魚沼コシヒカリ	16,500	0
新之助	15,200	0

(注) 県本部ベース、60キロあたり、▲はマイナス



おかわりは自由です